

## 防衛研究所長開会挨拶

防衛研究所長の新員でございます。安全保障国際シンポジウムの主催者として一言、ご挨拶申し上げます。

最初に、私ども防衛研究所について簡単にご紹介させていただきます。防衛研究所は、諸外国の国防大学に相当する研究機関として、幹部自衛官の教育にあたるとともに、防衛庁のシンクタンクとして、我が国の防衛・安全保障に関わる様々のテーマについて研究を行っております。防衛研究所での日頃の研究成果につきましては、『東アジア戦略概観』や『防衛研究所紀要』の刊行等を通じて発表させて頂いています。

本安全保障国際シンポジウムは、今回で3回目になります。冷戦後の国際情勢を表現する言葉として、不透明、不確実という言葉がよく使われ、我が国周辺におきましても、我が国の防衛・安全保障に関わる事件や変化がいろいろと起きております。このような状況を背景に、ここ数年、安全保障問題に対する国民の皆様の関心が高まりを見せています。そこで、私どもは、私ども防衛研究所の研究成果の発表と合わせ、我が国における安全保障論議を深める上で有意義な材料を提供できればという願いから、海外から著名な安全保障研究者をお招きして、それぞれの立場から活発な議論をしていただく本安全保障国際シンポジウムを主催させていただくことに致しました。

さて、今回の第三回シンポジウムにおきまして、私どもは「21世紀の国際秩序と東アジアの安全保障」というテーマを取り上げることと致しました。今回は、21世紀に入り、最初のシンポジウムとなります。折しも、昨年5月に台湾に陳水扁新政権が発足するとともに、朝鮮半島においては6月に南北首脳会談が行われるなど、東アジアの安全保障に大きな影響を及ぼす変動がありました。

また、本年に入り、米国ではブッシュ新政権が誕生し、その東アジア政策の行方が注目されているところであります。また、フィリピンにおきましても、アロヨ新政権が発足し、さらに、朝鮮半島情勢に目を転じますと、つい最近、金正日・総書記が中国を訪問したことなど、今後の動向が注目を集めております。

このように、21世紀という新たな世紀を迎え、東アジアの情勢は大きく動こうとしております。そこで、今回のシンポジウムでは、こうした「大きな時代のうねり」を見据えながら、東アジアの安全保障が、今後、どのように推移するのか、また、長期

的な視座に立った場合、これがどうあるべきなのか、検討しようと企画致しました。

本シンポジウムには、防衛庁から米田政務官においで頂きました。引き続きご挨拶を頂く予定にしております。

本シンポジウムにご参加を賜りました外国からのパネリストの皆様、また、お忙しい中、防衛研究所のためにお時間を割いていただいたコメンテーターの先生方、に謝意を表しますとともに、ご来場賜りました多数の皆様にも、併せてお礼申し上げます。

本シンポジウムは、本日と明日の2日間という短いものではございますが、活発な論議が交わされ、実り多い成果が得られますことを期待し、私の挨拶と致します。

平成13年1月24日

防衛研究所長

新貝 正勝